

平成 30 年度事業報告書

平成 30 年 4 月 1 日から平成 31 年 3 月 31 日まで

特定非営利活動法人
中村元記念館東洋思想文化研究所

1. 事業の成果

平成 24 年 10 月 10 日の開館以降、平成 31 年 3 月 31 日時点で延べ 55,798 名が訪れている。平成 30 年度は、7,238 名にご来館いただいた。

平成 30 年度は施設の改修工事(松江市役所八束支所複合施設改修工事)も完了し、八束支所、中村元記念館に八束公民館が加わり、3つの複合施設として生まれ変わった。

事業としては当初計画した事業をすべて実施することができ、来館者の期待に応えることができた。

特に、一昨年度に実施できなかった5周年記念事業を実施し、県内はもとより、県外からもたくさんの方に参加いただき記念館設立の意義を再認識していただけるよい機会となった。

蔵書の管理については順調に作業を進め、管理に必要な知識・技術の習得のための職員研修などにも力を入れた。

ひきつづき、多くの方にご来館いただける魅力ある記念館を目指し、様々なイベントの実施、企画展の開催などを行っていくとともに、博士の蔵書の適切な管理を行っていきたい。

2. 事業の実施に関する事項

事業名	事業内容	実施事業の 日時・場所、 従事者の人数	樹液対象者 の範囲 及び、人 数、評価	事業費の 金額 (単位：千円)
故中村元博士の蔵書の管理及び中村元記念館の管理と運営	1. 中村元博士蔵書整理事業	別紙参照		14,969
東洋思想・文化に係る研究、講座、イベントなどの実施	1. 東方学院松江校の運営 2. 研究員による研究活動 3. 中村元記念館開館5周年記念事業「中村元を語る会」の開催 4. 企画展 5. 中村元東洋思想文化賞 6. 大学連携事業	別紙参照		3,884
東洋思想・文化の普及、啓発のための出版及び広報事業	1. 記念館通信の発行 2. 博物館/施設との連携 3. メディア対応 4. その他広報活動 5. ミュージアムショップ運営	別紙参照		320
国際文化交流事業	1. アジア文化紹介事業 2. 山陰インド協会との連携	別紙参照		80
地域の文化、経済、観光、人づくりを推進するために必要な事業	1. 中村元記念館友の会の会員募集・会員特典の提供 2. 地域・行政との交流事業 3. 子ども教育事業 4. 旧八束教員住宅(通称)「はじめハウス」の利活用	別紙参照		100

3. 会議に関する事項

(1) 理事会（開催年月日 平成 30 年 5 月 21 日）

開催場所 中村元記念館 研究室

出席者数 11 名（うち表決委任者 2 名）／ 理事人数 13 名

議決事項の概要

- ・平成 29 年度活動報告
- ・決算承認について
- ・平成 30 年度事業計画及び予算に関する件
- ・定款一部変更の件
- ・中村元記念館東洋思想文化研究所組織・運営規程一部変更の件 等

(2) 総会（開催年月日 平成 30 年 5 月 21 日）

開催場所 中村元記念館 研究室

出席者数 14 名（うち表決委任者 4 名）／正会員数 20 名

議決事項の概要

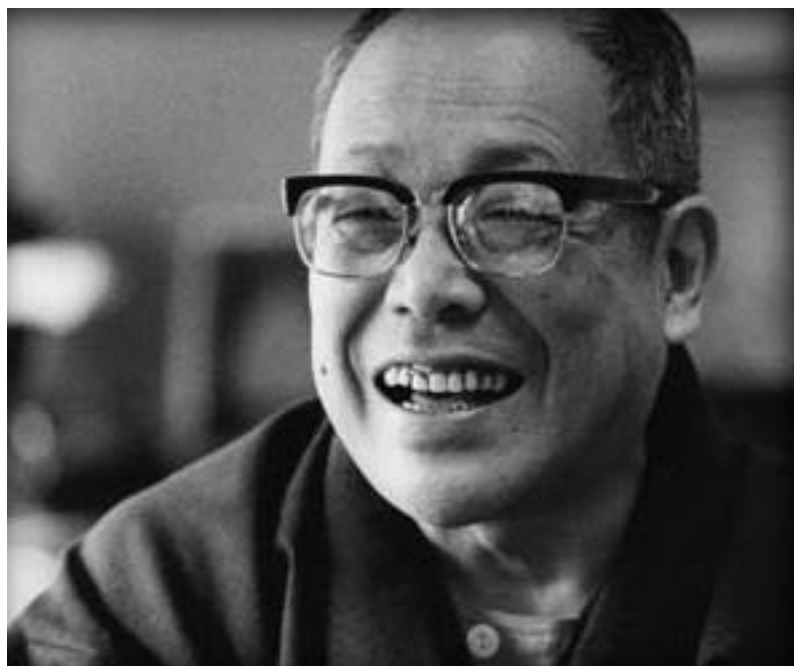
- ・平成 29 年度活動報告
- ・決算承認について
- ・平成 30 年度事業計画及び予算に関する件
- ・定款一部変更の件
- ・中村元記念館東洋思想文化研究所組織・運営規程一部変更の件 等

【別紙】

特定非営利活動法人

中村元記念館東洋思想文化研究所

平成 30 年度 事業報告書



(1) 故中村元博士の蔵書の管理及び中村元記念館の管理と運営

1. 中村元博士蔵書整理事業(松江市より受託)

事業の目的	松江市から委託された中村元博士の蔵書を整理・公開することで、松江市の歴史的財産として保存するとともに、研究者の利用のみならず、一般の来館者の皆様にも広く観覧していただく。
実施期間	通年
実施人数	職員などスタッフ:5名(通年)、ボランティア のべ65名
事業内容	<p>■ 蔵書整理・登録</p> <p>平成26年度に導入した図書管理ソフト GANGA と NACSIS 接続ソフト MILAGRO により、国立情報学研究所が運営する総合目録データベース (NACSIS-CAT) を利用し、自館と NACSIS-CAT への登録を実施。</p> <p>平成30年度は3,324点の資料を登録した。(通算登録冊数:13,244冊)</p> <p>■ 蔵書の公開</p> <p>・記念館の OPAC(オンライン蔵書検索システム)登録による公開と、企画展等で順次公開した。</p> <p>■ 資料保全作業</p> <p>・中村博士の蔵書・原稿は、記念館スタッフの他、外部ボランティアの協力なども得ながら、1冊ずつ手作業で丁寧にクリーニング作業を行い、中でも劣化(破損・カビ・虫食い)が激しいものに関しては、古代出雲歴史博物館などの協力を仰ぎながら、適宜対策を行った。</p> <p>また、温湿度管理を意識し、よりよい環境での保存を目指している。</p> <p>■ 図書室スタッフブログの開設</p> <p>今年度は3回発信した。</p> <p>■ 資料整理・保存・公開のためのスタッフ研修</p> <p>適正な資料保存について、職員のスキルアップのために複数回の研修を行った。</p> <p>京都国立博物館 公益財団法人美術院 (株)大入 島根大学図書館</p>

(2) 東洋思想・文化に関わる研究、講座、イベント等の実施

1. 東方学院松江校の運営

事業の目的	東方学院は、中村博士によって真理追求を目的とする学問本来の姿に立ち返り、「人間の回復」を目指して設立された。東方学院松江校はこの理念を継承すべく、学問のセクショナリズムにとらわれない講座を開講し、多くの人々が「如何に生きるべきか」を考える場を提供することを目的とする。
実施期間	平成 30 年 4 月 1 日～平成 31 年 3 月 31 日
実施人数	職員などスタッフ:5 名(通年) 講師:26 名
事業内容	<p>「東洋思想研究の世界的権威」として松江名誉市民を贈られた中村元の私塾「東方学院」の理念を継承した「東方学院松江校」において、東洋思想分野に関連する講座を開講した。</p> <p>通年の定期講義では、仏教学分野の他、文学や宗教学、歴史学に関する分野について14 の講義を開講した。</p> <p>外部から講師を招聘する集中講義では、現職の大学教員を中心に、中村博士の専門であったインド哲学をはじめ、ジャイナ教、イスラーム教、アメリカ仏教に関連した13 講座を開講した。</p> <p>・講座数:27 講座 受講申込者数:197 名</p>

2. 研究員による研究活動

事業の目的	中村元記念館東洋思想文化研究所研究員:9 名。 故中村元博士が開拓された学問の道を探求し、山陰地域の学術・文化の振興に寄与することを目的として、研究活動を行っている
実施期間	9 月 29 日
実施人数	職員などスタッフ:5 名(通年) 研究員:1 名
事業内容	<p>研究活動報告の場として、所属研究員による「中村元思想文化カフェ」を実施した。</p> <p>平成 30 年度は 1 回のみ開催した。</p> <p>◆第 14 回 平成 30 年 9 月 29 日(土) 岡 宏 ”いのち”の現場から考える”大丈夫”という物語り 岡 宏</p> <p>参加者人数:20 名</p>

3. 中村元記念館開館 5 周年記念事業「中村元を語る会」の開催

事業の目的	<p>記念館開館 5 周年の節目に、改めて「東洋思想研究の世界的権威」として松江名誉市民を贈られた中村元博士の業績を再確認するとともに、これまで博士を知ることのなかった人々にも興味を持っていただき、記念館に足を運んでいただくきっかけとする。中村元博士を伝える記念館の存在意義を、島根県はもとより全国の方々に再確認していただくことで、次の 10 周年に向けて、記念館の存続と経済基盤の確立を目指す。</p>
実施期間	<p>平成 30 年 8 月 1 日(水)</p>
実施人数	<p>職員・スタッフ 11 名</p>
事業内容	<p> ■ 開催日時 平成 30 年 8 月 1 日(水) 15:00～20:00 ■ 場 所 ホテル一畑 ■ 会 費 講演・シンポジウム参加費 2,000 円 祝賀会(講演・シンポジウム参加費含む) 10,000 円 ■ 内 容 (1) 前田専学館長による基調講演 (2) 中村博士ゆかりの方々による、中村博士を語る座談会の開催 〈出演者〉 川崎 信定(筑波大学名誉教授) 黒川 文子(東方学院講師) 釈 悟震(中村元東方研究所理事総務) 田辺 和子(中村元東方研究所前理事) 三木 純子(中村元記念館名誉館長) 三木 保(中村元東方研究所評議員) (3) 中村元記念館の運営に貢献した方々・顕著な活動をされた方々を表彰する式典 (4) 関係者・支援者・参加者の親睦と交流。記念館の今後の発展を祈願した祝賀会 ・シタール演奏(瀬古康雄) ・スライド上映(中村元記念館の歩み【仮題】) 中村博士と親睦のあった色々な立場の方々から、学問的な側面だけでなく、博士の人となりによりスポットを当てたお話を聞いていただくことができ、参加者からは、「新たな博士の一面を知ることができ、有意義な時間だった」という内容の感想を多数いただいた。祝賀会では、中村元記念館 5 周年の歩みをムービーに編集しご覧いただくことで、これまで記念館が行ってきた活動について再認識していただくことができた。 参加人数:113 名 </p>

4. 企画展

事業の目的	<p>中村博士の研究や人物、また東洋思想などについての企画展を行った。 中村博士と縁の深いインドについて、絵画や写真などの展示を行った。 博士の蔵書、収蔵品などを図書室ミニ展示として親しみやすく展示した。</p>
実施期間	<p>下記のとおり</p>
実施人数	<p>職員 5 名 ボランティア 3 名</p>
事業内容	<p>①「能海寛生誕 150 年 中村元記念館特別展 チベット仏教求法僧・能海寛と中村元博士」 期間：平成 30 年 2 月 3 日～8 月 31 日 能海寛生誕 150 年特別展として、中村元博士が顧問を務められた能海寛研究会の岡崎秀紀会長のご協力のもと、能海にまつわる貴重な史料をお借りし、企画展を実現。 中村博士が「最初のチベット探検家」と位置付け、世界の仏教統一を目指した、知られざる求法僧、能海寛の生涯と思想を再現した。</p> <p>②「インド仏跡巡拝の旅」 期間：前期 平成 30 年 8 月 2 日～9 月 30 日 後期 平成 30 年 10 月 2 日～11 月 30 日 籠博道（ながたに・ひろみち）氏による、インドの風景や現地の人々の日常を描いた水彩画を前期・後期に分けて約 50 点展示した。期間中來場者にポストカードのプレゼントを行った。</p> <p>③中村元記念館企画展 三井昌志写真展「インド・12 億の素顔」 「日経ナショナルジオグラフィック写真賞 2016」においてピープル部門最優秀賞を受賞された、写真家 三井昌志氏の写真展「インド・12 億の素顔」を開催。 期間：前期…12 月 11 日（火）～1 月 13 日（日） 後期…1 月 29 日（火）～4 月 15 日（月）</p> <p><図書室ミニ展示></p> <p>①ミニ展示 No. 4 中村博士と家族の絵本 平成 30 年 10 月 30 日まで</p> <p>②ミニ展示 No. 5 ヨーガとインドの本 平成 30 年 6 月 20 日～11 月 30 日</p>

5. 中村元東洋思想文化賞

事業の目的	連携大学を含む全国国公立大学及び私立大学 100 校を対象に大学生・大学院生の優れた論文を広く顕彰し今後の研究を奨励することを目的とする。
実施期間	授賞式 平成 30 年 10 月 20 日
実施人数	職員・スタッフ 5 名
事業内容	<p>「中村元東洋思想文化賞」を設立し、東洋思想を学ぶ学生による学士論文、修士論文を表彰した。授賞式は松江市能海副市長、ご臨席の元、優秀賞、松江市長賞、奨励賞を授与し、賞状と盾、学術奨励金の他に記念品が贈られた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・優秀賞: 東京大学 大学院 張 瀛子(ちょう・えいこ) 「清代の荀子再評価: 「十六字心伝」から恵棟(けいとう)まで」 ・松江市長賞: 東京大学 大学院 大胡 高輝(おおご・こうき) 『『教行信証(きょうぎょうしんしょう)』における 『十住毘婆沙論(じゅうじゅうびばしゃろん)』引文の位置 一般舟三昧(はんじゅざんまい)から称名念仏への転形—」 ・奨励賞: 大阪大学 坪田 さより(つぼた・さより) 「古代インドにおける Kūrma(クールマ)「亀」」 <p>授賞式のあとには優秀賞を受賞された張氏による特別講演がおこなわれた。</p>

6. 大学連携事業

事業の目的	インド哲学や仏教学を学べる大学や、近隣の大学、大学院と連携することで、高等教育の場で、記念館の活用をしていただくことを目的とする
実施期間	通年
実施人数	スタッフ 5 名
事業内容	<p>① 東京大学大学院人文社会系研究科 アジア文化研究専攻 インド文学・インド哲学・仏教学 准教授 加藤隆宏先生 日程: 平成 31 年 2 月 19 日～20 日 中村元博士蔵書の調査を行われた。</p> <p>② 島根大学との協議 日程: 平成 31 年 2 月 4 日 法文学部長 田中則雄先生、図書館司書グループリーダー 昌子様、青柳様と、今後の島大との連携について協議を行った。</p> <p>③ 島根大学附属図書館研修 平成 31 年 3 月 18 日 図書館システムについて、資料保存・整理方法などの研修</p> <p>③連携大学紹介コーナーにおいて、学校案内パンフレットなどを設置し、紹介を行った。(通年)</p>
連携先	・大正大学、立正大学、佛教大学、島根大学、島根県立大学、東京大学(イ

	ンド哲学仏教学研究室)、東洋大学、武蔵野大学、龍谷大学、大谷大学、 (3) 東洋思想・文化の普及、啓発のための出版及び広報事業
--	--

1. 記念館通信の発行

事業の目的	中村博士の業績や、中村元記念館の活動を記念館関係者の方々、また広く一般の方々にお知らせすることを目的とする。
実施期間	平成 30 年 7 月発行
事業内容	第 12 号 6000部発行 内容:松江校ガイダンス他活動報告、研究員紹介、研究会員コーナー、学芸員だよりなど

2. 博物館/施設との連携

事業の目的	広く全国の方へ東洋思想・哲学を普及するため、哲学者を顕彰する全国の施設と連携し普及活動を推進。
実施期間	通年
事業内容	・連携協定を結んでいる「史跡足利学校」ほか、石川県金沢市「鈴木大拙館」、石川県かほく市「石川県西田幾多郎哲学館」をはじめ、古代出雲歴史博物館など近隣の博物館や美術館などとはパンフレット・ポスターの掲示など広報についての連携を継続中。

3. メディア対応

事業の目的	中村元博士、記念館の紹介、博士の業績の顕彰などのため、各種媒体、メディアへの取材対応、記事掲載を積極的に行った。
実施期間	通年
事業内容	① 新聞記事掲載(「慈しみの心」除く 28 回) <ul style="list-style-type: none"> ・山陰中央新報『第 1 面 「慈しみの心」毎日掲載 ・山陰中央新報 文化欄 東方学院松江校 講座案内 随時掲載 ・りびえーる (山陰中央新報) 企画展情報掲載 ・仏教タイムス、文化時報 5 周年関連記事掲載 ・朝日新聞 ・山陰中央新報 元号関連記事 ② 機関紙『ちどり』(松江市立図書館)平成 31 年 3 月発行 「知っておきたい松江市名誉市民 中村元 ④ テレビ等 <ul style="list-style-type: none"> ・中村元東洋思想文化賞授賞式 ニュース(マーブルテレビ)

4. その他広報活動

事業の目的	中村元記念館及び東洋思想に興味を持っていただくため、チラシやパンフレットだけでなく、ホームページやブログ、フェイスブックなど様々な媒体を通じて情報発信を行った。
実施期間	通年
事業内容	<ul style="list-style-type: none">・パンフレットの配布(約 850 部)・ホームページの運営(講座・イベント情報等適宜発信中)・メールマガジンの発行 No54～No68(15 回)・フェイスブックの運営(37 回更新)・ブログの運営(37 回更新)・中海テレビ放送 みんなの伝言板 10 回配信

5. ミュージアムショップ運営

事業の目的	一般書店では手に入りにくい中村元博士の著作、東洋思想、仏教関連書籍など、専門書籍を幅広く取りそろえ、来館者の知へのニーズを満たす。 記念館オリジナルのお土産品の提供による、来館者満足度の向上。
実施期間	通年
販売グッズ	哲学、東洋思想などの専門書籍を充実させた。出版社の協力もあり、現在、CD や DVD など映像資料なども併せると約 200 種を超える品ぞろえとなっている。 また、来館者のお土産として中村元記念館のオリジナルグッズ、クリアフォルダ、オリジナルノート、慈しみのコーヒー詰め合わせ、地元産の紅茶や煎茶などを販売した。

(4) 国際文化交流事業

1. アジア文化紹介事業

事業の目的	中村元記念館の認知度向上や、新規来館者の獲得を目的とし、広く一般の方を対象に中村元博士が研究されたアジア地域について紹介し、文化的な交流を促進する。
実施期間	通年
事業内容	(1) ぼたん祭ステージイベント 平成30年4月28日: ぼたん祭参加。 ステージイベントとして、東宝学院松江校講師 瀬古康夫先生主宰のしまねガムラン7名による演奏を行った。 (2) 図書閲覧室での文化紹介本の設置 アジア各国の文化紹介本等を公共図書館から借り受け、気軽に読書することができる環境を提供。 (3) インド旅行客の誘致のための見学 平成30年10月6日 インド関係者6名+近畿日本ツーリスト(松江商工会招聘)

2. 山陰インド協会との連携

事業の目的	「日印の絆の要」として記念館があり続けるために、山陰インド協会と連携し、インド等諸外国の要人を招き中村元博士と記念館を知っていただく。
実施人数	5人
事業内容	平成30年5月30日 インド総領事 駐日インド大使来館見学 平成30年6月10日 インド公使 来館見学。 平成31年1月21日 インド総領事 来館見学

(5) 地域の文化、経済、観光、人づくりを推進するために必要な事業

1. 中村元記念館友の会の会員募集・会員特典の提供

事業の目的	記念館の理念に共感される方々に「中村元記念館友の会」に加入していただき、運営をご支援いただくとともに、中村元博士の業績、東洋思想及び当館の活動に対する理解を一層深めていただく。
実施期間	通年
事業内容	<p>中村元博士の蔵書整理・公開、東方学院松江校の運営など、当館の活動に対して共感・協力していただける方を対象に、「中村元記念館友の会」に加入していただく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・会費 2,000 円/年 ・会員特典 会員証の発行、活動報告の発送、館内での書籍・グッズ購入時の割引、提携施設(由志園等)の入場料割引、会員同士の親睦会の案内 ・平成 30 年度会員 98 名

2. 地域・行政との交流事業

事業の目的	行政、民間、地元八束町の要望に沿った交流事業を実施し、中村元と記念館を知っていただく契機とする。
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・平成 30 年 4 月 28 日～5 月 6 日:ぼたん祭への参加・運営協力。 ・八束公民館図書室の運営協力 <ul style="list-style-type: none"> ・8 月 2 日 おはなし会 ・平成 30 年 10 月 19 日:第 5 回中村元記念杯八束町、世代間交流 GG 大会の開催協力 <ul style="list-style-type: none"> 八束町グラウンド・ゴルフ協会主催 ・ボランティアサポーター制度を継続して実施し、イベント・図書整理等で支援していただいた。
連携先	八束公民館、松江北商工会、八束町内の自治会・松江観光協会、島根県総務部人事課等

3. 子ども教育事業

事業の目的	記念館で簡単な作業を体験し、中村博士の「慈しみ」の心にふれてもらうことで、小中学生の情操教育に役立てる。また、高校生・大学生にも自習室を解放し、利用してもらう。
実施期間	通年 スタッフ 5 名
事業内容	<p>① 中学生職場体験 平成 30 年 6 月 19 日～21 日 八束学園 9 年生(中学 3 年生)1 名 職場体験受け入れ。図書整理、事務作業、5 周年式典の準備、移動図書館でのブックハンティング(記念館に配架する児童図書の選書作業)などの作業を体験していただいた。</p> <p>② 夏休み子供ボランティア 平成 30 年 8 月 9 日 八束学園と連携し、小中学生の夏休みボランティア体験を当館で受け入れ、図書整理などの作業を手伝っていただいた。 参加人数:5 年生 1 名参加</p> <p>③ 児童図書コーナー(さるすべりコーナー)に、毎月、公共図書館から相互貸借資料を配架し、広い読書年齢に対応した環境を提供</p> <p>④ 自習室の開放 記念館の静かな環境で、勉強や読書を行ってもらえるよう、小・中・高・大学生に自習室を解放した。</p> <p>⑤ 大学生蔵書整理体験(ボランティア)受入 平成 31 年 3 月 26 日</p>

4. 旧八束教員住宅(通称「はじめハウス」)の利活用

事業の目的	中村元記念館および利用者の行う会議、研究、宿泊、イベントなどの用途に対して、旧八束教員住宅を提供し、活用することですること、周辺地域の活性化を促進する。
実施期間	通年
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・東方学院松江校講師の宿泊 1 名 ・東方学院松江校 課外授業開催 * 民族音楽実践教室の開催(14 回 のべ 121 名) ・その他スタッフ研修など

5. 外部団体主催イベントへの協力

○事業計画

事業の目的	各種団体が行う大会やシンポジウム、学会などの開催を支援する。
事業内容	各種団体が主催するイベントへの協力 ・全日本仏教会が行う、仏教徒大会への協力 ・平成 31 年 2 月 13 日 曹洞宗 島根県布教講習会(理事長・釈先生の講義)
想定される効果	記念館の知名度アップ、松江、島根県にとっての経済効果も見込まれる。

